

## 長期の大気汚染(PM2.5)が急性冠状動脈症候群の生存率に関係する

本研究は、イギリスでの心筋虚血国家監査プロジェクトのデータを用いて、汚染された大気への長期の暴露が全死亡率と関連するか、また、大気汚染の程度が予後における社会経済的な格差を来すことになるかを検討した。

急性冠状動脈症候群（急性心筋梗塞や不安定狭心症、ACS）の患者 154,204 人に対して、2004-2010 年の年間平均大気汚染濃度を調査した。追跡期間の平均は 3.7 年で、39,863 人が死亡した。直径が  $2.5\ \mu\text{m}$  以下の粒子[PM (2.5) ]の濃度が高い大気に暴露されている患者ほど死亡率が高かった。大きな粒子や窒素酸化物 (NO) では関連がなかった。

貧困地域では PM(2.5)の暴露が多かったが、ACS 発病後の予後における社会経済的格差には大きな影響はなかった。

(出典 : European Heart Journal 2013; Feb 19)